ダイバーシティ事業　国際共同若手研究者養成プログラム
報告書

報告日：2019年10月4日

<table>
<tr><td>派遣者所属名</td><td>国際教育総合センター</td></tr>
<tr><td>派遣者氏名</td><td>朴 秀娟</td></tr>
<tr><td>研究タイトル</td><td>産出につながる日本語教育を目指した日本語学習者の中間言語に関する文法研究</td></tr>
<tr><td>研究目的</td><td>本研究は、日本語学習者が学習した項目を使えるようになるための日本語教育、とりわけ文法教育に関する資料の構築を目指し、日本語学習者の中間言語に見られる文法的特徴を明らかにすることを目的としている。派遣者は、これまで、日本語学習者、なかでも、中国語を母語とする日本語学習者による中間言語を主な考察対象としてきた。本研究では、韓国語を母語とする日本語学習者、英語を母語とする日本語学習者による中間言語も考察対象とし、中国語、韓国語、英語をそれぞれ母語としている学習者の中間言語について、対照言語学的観点から、日本語学習者の中間言語に見られる文法的特徴について考察を行う。</td></tr>
<tr><td>研究報告</td><td>2019年度は、韓国と米国の両国において研究活動を行った。研究期間、所属機関及び共同研究者は以下のとおりである。
<table>
<tr><td></td><td>研究期間</td><td>所属機関</td><td>共同研究者</td></tr>
<tr><td>韓国</td><td>2019/04/01～2019/05/27</td><td>韓国外国語大学</td><td>鄭相哲教授</td></tr>
<tr><td>米国</td><td>2019/05/27～2019/08/25</td><td>サンフランシスコ州立大学</td><td>南雅彦教授</td></tr>
</table>
以下、それぞれにおいて行った研究の概要と成果について述べる。

1. 韓国
鄭相哲教授とは、日本語学習者の中間言語において誤用が多く観察される項目の一つである、連体修飾節のテンス・アスペクトに関する研究を中心に行った。具体的には、1)連体修飾節のテンス・アスペクトに関する日韓対照研究と、2）連体修飾節のテンスの指導法に関する研究である。1）の成果については、2019年4月20日（土）～22日（月）に新潟大学にて開催された国際ワークショップ「北東ユーラシア諸言語の記述と対照3」で「한일관형절의 시상법에 관한 연구（訳：韓日冠形節の時相法に関する研究）」という題目で共同発表を行った。そして、2）の成果については、2019年9月21日（土）に聖潔大学（韓国・京畿道安養）にて開催された「韓国日本語学会第40回国際学術発表大会」で「相対テンスの指導法について―時間を表す従属節を中心に―」という題目で共同発表を行った。現在、国際学術誌への投稿を視野に、1）と2）の研究成果をまと</td></tr>
</table>

	めているところである。 　また、韓国では、鄭教授を含む複数の韓国国内の日本語研究者らと、韓国人日本語学習者向けの日本語文法書の執筆及び編集作業を行った。本書は現在、試作教科書として、韓国外国語大学で開講されている日本語の授業において使用されている。今後、受講者からのフィードバックを踏まえて修正を行い、来年の春に韓国国内において刊行する予定である。 　上記以外にも、本派遣の成果と文法書の執筆がきっかけとなり、文法書の編集に携わった4名（派遣者ほか、鄭相哲教授（韓国外国語大学）、河在必助教授（韓国外国語大学）、全紫蓮助教授（慶尚大学）の3名）で、テンス・アスペクトの日韓対照研究に関する研究会及びプロジェクトを立ち上げることになった。研究会は、2020年2月に始動し、それ以降、年2回のペースで開催される予定である。関連文献の検討、データの分析及び考察を行い、5年計画で、日本語と韓国語のテンス・アスペクト体系の対照研究に関する研究書を執筆し、出版をする予定である。 2. 米国 　南雅彦教授とは、現在第四次データが公開されている「多言語母語の日本語学習者横断コーパス(International Corpus of Japanese as a Second Language)」（以下、I-JAS）を用いて、日本語学習者の能動態と受動態の使用に関する研究を行った。派遣期間中は、主に、1）データの整理及び入力、2）考察の観点の検討を行い、現在は、日本語母語話者との比較分析、母語別に見られる使用傾向の分析を中心に、データの分析を行っているところである。本研究の成果については、2020年3月末に予定されているI-JAS関連のシンポジウムにて発表をする予定である。また、南教授からは、派遣前に遂行していた個人の研究課題についても助言をいただくことができ、その成果は、2019年9月29日（土）に学習院大学で開催された「日本語／日本語教育研究会　第11回大会」にて「中級日本語学習者によるストーリーテリングに見られる副詞の特徴」という題目で発表した。本研究で用いたデータ、研究方法及び考察結果は、南教授と行っている共同研究とも関連する部分があり、本成果は、共同研究の成果をまとめる際にも有効に活用できると考えている。 　また、米国では、南教授のご協力のもと、日本語の教授現場（Japan Society of Northern California主催の日本語教室（入門レベル・上級レベル）、カリフォルニア大学バークレー校のサマーコース（中上級レベル））において、英語を母語とする日本語学習者の日本語運用能力について観察し、その特徴について記録した。これらの特徴については、南教授とも議論を重ねており、今後の考察対象を検討する際に活用する予定である。 　なお、南教授と現在取り組んでいる、能動態と受動態に関する研究成果は、来年度以降、順次発表を行う計画である（発表を予定している学術論文及び国際学術大会の詳細については「研究成果の発表予定」を参照）。

	鄭相哲教授、南雅彦教授とは、現段階では「テンス・アスペクト」、「能動態・受動態」といった個々の課題で研究を進めているが、いずれも日本語学習者の中間言語に着目した研究である。南教授との研究課題で扱っているデータの分析には、鄭教授との研究課題である「テンス・アスペクト」の観点も関わっていることから、3人での共同研究も可能ではないかと思っている。将来、派遣者が主体となり、両研究課題の成果をとりまとめ、「テンス・アスペクト」を軸とした、3人での成果発表ができればと考えている。
今後の研究の見通し	概ね順調に進みそうである。鄭相哲教授とは、2019年9月21日（土）に「韓国日本語学会第40回国際学術発表大会」で発表した内容を振り返り、投稿先について検討しているところである。南雅彦教授とは、メールを通して、データ分析の観点に関する議論を活発に行っている。
研究成果の発表予定	・国際共著による学術論文や国際会議での発表予定 1. 発表済み 【口頭発表】 ・国際会議 鄭相哲・朴秀娟（2019）「한일관형절의 시상법에 관한 연구（訳：韓日冠形節の時相法に関する研究）」『国際ワークショップ「北東ユーラシア諸言語の記述と対照3」』（2019年4月20日・新潟大学（日本）） 朴秀娟・鄭相哲（2019）「相対テンスの指導法について―時間を表す従属節を中心に―」『韓国日本語学会第40回国際学術発表大会』韓国日本語学会（2019年9月21日・聖潔大学（韓国）） ・国内会議 朴秀娟（2019）「中級日本語学習者によるストーリーテリングに見られる副詞の特徴」『日本語／日本語教育研究会　第11回大会』日本語／日本語教育研究会（2019年9月28日・学習院大学（日本）） 2. 発表予定 1）鄭相哲教授との共同発表 【投稿】 ・『日本語學研究』韓国日本語学会（2019年度刊行） ※米国等、韓国以外の国において刊行されている国際学術誌に、英語で投稿することについても検討中。その場合、刊行は2020年度以降となる。 2）南雅彦教授との共同発表 【口頭発表】 ・「2020年日本語の誤用及び第二言語習得研究国際シンポジウム」日本語誤用と日本語教育学会 【投稿】

	・『日語偏誤与日語教学研究』日本語誤用と日本語教育学会（2020年度刊行予定）

海外派遣終了後の研究の進捗状況（2020年2月現在）

1）鄭相哲教授（韓国外国語大学）との共同研究

①国際学術大会で共同発表を行った。

朴秀娟・鄭相哲（2019）「相対テンスの指導法について―時間を表す従属節を中心に―」『韓国日本語学会第40回国際学術発表大会』韓国日本語学会（2019年9月21日・聖潔大学（韓国））

②新しく立ち上げた研究会のテーマ及びスケジュールについて確認を行った（2020年2月18日～19日に韓国で研究会を行う予定であったが、新型コロナウイルスの影響で延期となった）。

2）南雅彦教授（サンフランシスコ州立大学）との共同研究

①データの整備を行った（成果の一部が、『「I-JAS」完成記念シンポジウム』（国立国語研究所）にて公開される予定であったが、新型コロナウイルスの影響で延期となった）。

②共同発表・投稿を視野に入れた今後の研究の方向性及び研究スケジュールについて確認を行った。

3）その他

①派遣中に南教授に助言をいただいていた個人研究について成果発表を行った。また、その後、学会誌に投稿し、採択された。

朴秀娟（2019）「中級日本語学習者によるストーリーテリングに見られる副詞の特徴」『日本語／日本語教育研究会　第11回大会』日本語／日本語教育研究会（2019年9月28日・学習院大学）

朴秀娟（2020予定）「中級日本語学習者の口頭表現に見られる副詞の特徴―ストーリーテリングを中心に」『日本語／日本語教育研究11』ココ出版

②派遣先（米国）の学会である、全米日本語教育学会（American Association of Teachers of Japanese）に発表を応募し、採択された。

朴秀娟（2020予定）「日本語教育における「たくさん勉強してください」の使用をめぐって」『AATJ 2020 Annual Spring Conference』American Association of Teachers of Japanese（2020年3月19日予定・Sheraton Boston Hotel（米国））